編集長
対×談

指揮者　　ACT4編集長

アンドレア・バッティストーニ×佐藤真理子

1987年ヴェローナ生まれの若手指揮者、
アンドレア・バッティストーニは、各地の歌劇場などから
オファーが相次ぎ、早くも世界的な頭角を現している話題の人。
日本では2012年の二期会『ナブッコ』公演で鮮烈なデビューを
果たし、その後、東京フィルとのレスピーギ『ローマ三部作』、
マーラー『巨人』などで評価を高め、今年2015年も初の二期会
『リゴレット』、軽井沢大賀ホールでのコンサート、
東京フィルとの演奏会形式『トゥーランドット』など、
圧倒的な進撃が続いている。
今一番注目を集める若きマエストロに話をうかがった。

photograph by Naoko Nagasawa

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

1987 年ヴェローナ生まれ。両親は大のクラシック好きで、父は医者、母はピアニスト。幼少時から母が音楽の手ほどきをした。ヴェローナ音楽院に入学し、14歳で指揮者になろうと決意。オペラ指揮者のデビューは 2008 年のパーゼル、コンサート指揮者としてのデビューは同年のイタリア、ミケランジェリ音楽祭。2010 年パルマのヴェルディ音楽祭での『アッティラ』でその名が知られるようになる。2011-2012 年のシーズンにパルマ王立歌劇場首席客演指揮者を 2 年間務め、2014 年からジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場の首席客演指揮者を務めている。

オーケストラはひとつの大きな楽器

ACT4（以下A）：ヴェローナ出身とのことですが、アレーナ・ディ・ヴェローナにはよく行きましたか？

バッティストーニ（以下B）：ええ、父もオペラが大好きで、小さい頃から連れて行ってもらいました。その頃は夏の大イベントといった感じで、壮大な舞台が凄いなあと、花火でも観に行くような感覚でした。それが今や、この五年は指揮しているのですから。

A：なぜ指揮者になろうと決心したのでしょうか。

B：音楽院にいながら、どうも音楽の勉強は好きではなかったのですが、初めて音楽院の学生オーケストラでチェロを弾いた時にショックを受けたのです。「オーケストラとはひとつの大きな楽器だ！」と突然気が付いて。それで「楽器の一人でいるよりは指揮者になりたい！」と指